

アスコマーチ！ ～県立明日香工業高校行進曲～

アキヤマ香 著

「アスコマーチ！～県立明日香工業高校行進曲～」というコミック本を紹介したい。

既にお読みになった方もいらっしゃるかもしれない。読まれた方は、どのような感想をお持ちになったでしょうか。私は、工業高校について好印象を持ってもらえる内容であると感じた。今まで、工業高校を題材とした漫画やテレビドラマは多々あったが、私自身、どれも良い印象は残っていない。しかし今回ご紹介するこのコミック本は、今までの漫画などとは違い、工業高校を良い印象として捉えており、とくに生徒の様子が良く描かれていると思う。一般の方々がこの本を読まれたら、きっと工業高校の応援団となるだろう。

工業高校では、一般的に女子生徒の在籍数は少数である。この本にある県立明日香工業高校も同様であり、昨年の女子入学生はゼロであったが、今年は4名の女子生徒が入学したということから話が始まっている。その中の1名の女子生徒（主人公）が様々な実習に取り組む様子や様々な思いを持って入学してきた生徒と学校生活を送る中で、仲間の大切さを感じ、自分がこの学校で頑張っていこうとする姿が描かれている。

第1巻では、工業高校らしいオイルの臭いが気になる実習工場、旋盤、半田付け、自動車整備などの実習に作業服で取り組む生徒の姿が描かれている。

主人公となる女子生徒の名前は、吉野 直。入学した学校は、県立明日香工業高校、通称アスコ（明日工）。今年の新入生は148名、内女子生徒4名が入学した。1学年4クラスで、女子生徒は、各クラス1名の設定である。

吉野 直は、本来入学したかった女子高校の入学試験日に熱を出し結果不合格となった。そして、アスコの補欠入試で入学したところ、クラスで女子生徒は1名。そのクラスの雰囲気や居心地が悪いこと、行きたかった学校ではなかったことを理由に入学早々学校を辞めることを祖母に相談する。祖母は直の気持ちを分かるとしながらも「まだ歩いてもないじゃないか」「歩いたその先に素敵なことが待っているかもしれない」と告げ「行ける所まで行ってみなさい」と勇気づける。その後、直は、徐々に他の生徒と語りあっていくうちに、一人一人が様々な思いでアスコに入学したことが分り、前向きに頑張ることを決める。

5月末に開催される明日工体育祭で直は、創作みこし走のリーダーになる。数日後、本格的にみこし作りが始まり、悪戦苦闘しながら皆の協力により体育祭に何とか間に合う。競技の結果は2位。体育祭が終了し、みこしを壊すことになり、そこで直は、創る喜びと壊れる悲しみを知る。

第2巻で直は、ロボット部に入部する。半田付けが下手、ロボットやプログラミングも良く分からない中、相撲ロボットを製作し、大会に挑戦、何事にも前向きに考え突き進む姿が描かれている。

ご紹介したこの本は、現在、第2巻まで出版されており、工業高校についての理解と興味・関心をさらに持っていただける内容となっている。アキヤマ香さんは、この作品を描くにあたり、工業高校を訪問し、取材を行なったようである。生徒の思いや生活観がとても良く表現されているので是非、お読みいただきたい。また、4月より武井 咲さん主演で、テレビドラマ化（テレビ朝日系）されている。併せて、ご覧いただきたい。

（集英社、新書版、200頁、420円）（豊田 善敬）